

〈翻訳〉

15世紀イングランドにおける 女性のための衛生書（Ⅲ）

末 広 菜 穂 子

{子宮の奇胎について。}

子宮の奇胎には二種類ある：一方は有毒な性質のもので、肉の腫れ物が子宮の中で少しずつ増え、成長し、見たところは全く子供を妊娠したようである。この種の奇胎は、不妊状態のままの女性自身の種 (seed) を子宮が受け入れたときに生じる。なぜなら、もしそれが男性の種から生じたものであれば、それは十分な精力がないので、子宮の自然力と自然熱の結果、生存することができず、結局 [f.221v] 死んだ肉腫ができることになるからである。他の種類のものは偽の奇胎と呼ばれるもので、これには二種類ある。一つは子宮の中に少しずつ溜まってくるガスによるもので、内部に多量のガスを生じさせる。その徴候は、子宮に触れると、鼓張 (tympanites ; tympanyst), すなわちガスによって生じ、成長する一種の水腫のたてるような音がすることである。偽の奇胎にはもう一種類ある。それは、子宮内にある大量の分解しにくい腐敗した有害な体液から生じる。そしてこの大量の体液は、腹水 (ascites ; Alchites) と呼ばれる別の種類の水腫のように、そこで大きく膨張する。そして、これら二種類の奇胎には治療法が一つある。そして私がすでに述べたように、すばやくではないが生きて動く胎児のごとく、奇胎は成長する。しかし、奇胎は生きていなくても動き、頻繁にはないが時にはガスを、時には肉腫を子宮から追い出してしまうこともある。

この病気の治療はたいへん難しく、効果が出るまで長くかかる。まず菜

草風呂に入らせる。第一に、患者の骨と関節を柔らかくするために：ゼニアオイ、コロハ、バルサム液、サクラソウ、ユリ、カミツレ、ニガヨモギ、カラミント、サザンウッド、エゾデンダの葉、ニンニク、スマレ、ピレトリウム、ウイキョウの葉、亜麻仁をすべて取って、それらで風呂をたて；患者が十分長く風呂に浸かり、風呂から出てすぐにヘンルーダとイヌハッカの汁とともにラーズイーの丸薬を2ドラクマ与える。そして、へそから下にウスベニタチアオイ、ユリのオイル、新鮮な五月のバターを調合した薬を塗り、二重にして熱くしたシートで体全体を覆い；甘松香、クミン、コストマリーで燻蒸する。これが [f.222r] 済んだら、秘所の内部に次のような軟膏を塗る：雄牛の胆汁を6ドラクマ、オイルを2ドラクマ取って、一緒に混ぜて軟膏を作り、それに1オンスのトウダイグサ (milkwort ; euforbii), 2オンスのサビナビャクシン, 1オンスのスペイン産ピレトリウム, 4オンスのスカモニア, 1オンスのクレタ島産ハッカの根を加え；これらをすべて粉にし、雄牛の胆汁に入れてよく混ぜ合わせ、長い羽を使って十分塗ることのできる最も奥のところに塗り、頭を下に尻を高くして寝かせる。いずれかの方法で患者が良くなったとしたら、それは結果に現れる。というのは、この薬は生死に関わらず胎児を分娩させるからである。別の種類の丸薬は次の通りである：10ドラクマ、16グレインの阿魏、アンモニアゴム、楓子香、ラン、トチバニンジン薬草の汁、ハラタケ、エゾネギの葉、ルピナス、カストリウム、オイル・ベネディクタをそれぞれ $2\frac{1}{2}$ ドラクマ、礬砂を2オンス、クジャクヤシ (vine-palm ; bidellii) を1ドラクマ、ゲツケイジュの実、シャクヤク、エゾデンダの種、蜜蜂の巣、ロック・パセリ (rock parsley ; petrosilii), 西洋ネズ、ウイキョウ、円くて長いウマノスズクサ、バルサムの木、灌木のバルサム、肉桂の木、カヤツリグサ、リンドウ、ヤグルマギク、ヘンルーダ、ニクズク、キュウリ、サビナビャクシン、ショウブ (acorus ; achory) の汁、フタバアオイ (hazelwort ; asari), イヌハッカ、カラミント、クレタ島産ハッカ、ルバーブ、甘松香、キャメルグラス (camel's hay ; squinanti), オレガノ、サフ

ラン、キャラウェイ、アニス、アカネ、クワの実をそれぞれ25グレインずつ、ヘンルーダの汁、蜂蜜、香料入りワインを1メジャーずつ取り；それらを料理するが、すなわちヘンルーダの汁とワインと蜂蜜を少し煮て、乳香、アルメニア産赤色止血土、楓子香、ラン、硼砂の中に入れ、これらをすべて一昼夜浸しておき；次の日に再び煮返して、布で漉す。そして漉したものを、ヘンルーダの汁とワインがなくなるまで煮つめ；粉末にした香料とガムをすべて加えて、重さ2ドラクマにした丸薬を一つ、上に述べた奇胎の場合に与える。そしてまた次のような丸薬1ドラクマで座薬を作る：すなわち、小麦粉、ヒエンソウ、トウダイグサ、スペイン産ピレトリウム、スカモニア、雄牛の胆汁である。擦り切れた亜麻布で小さな袋を作り [f.222v]、座薬を用意する。そうすれば、もし死んだ胎児がいればこれを排出させ、後産、血液、奇胎の肉腫も排出するだろう。クレタ島産ハッカの汁、キダチハッカそれぞれ2ドラクマ、水銀半スクールで作った飲み薬を与えなさい；これは、妊娠していて、しかもその胎児が死んでいる女性を分娩させる最善の手段の一つである。別の座薬：ニガヨモギ、ヨモギ、野生のタイム、クレタ島産ハッカ、オレガノ、キダチハッカ、サビナビヤクシンの汁をそれぞれ2ドラクマ、雄牛の胆汁を32ドラクマ、ピレトリウム、アイリス、ゲッケイジュ、オイル、澄んだ蜂蜜を半オンス取って；これらをすべて混ぜ合わせ、道具を用いて、この座薬をトウダイグサの粉を少しと白いクリスマスローズを少し、それぞれ2ドラクマずつと一緒に秘所から子宮に挿入する。というのは、この座薬はあらゆる種類の子宮の奇胎を破壊し、大いに効果的に追い出すからである。そして四、五年の間出血が止まっている女性の場合でも、アウグスチヌスによれば効果がある。しかもまず、先に述べた風呂から女性が出たら、すぐにオイルを塗り、シーツで包み、先に述べた丸薬を与えて、くしゃみを催させ、彼女がくしゃみをしたら、彼女を悲しませ、怒らせ、びっくりさせる。そしてそれをしたら、先に述べたペッサリーすなわち座薬を与える。次もまた子宮の奇胎の症例で；ある女性の場合だが、彼女が治ったのは、二枚のタオ

ルを体の中ほどに巻きつけ、二本の棒を使って；一本を体の一方の側で結び、もう一本を別の側で胃の辺りがきわめて小さく絞られるまでねじることによってであった。その後、彼女はきわめて立派な子供をもうけた。あるいは、[f.223r] アルマンソール (Almansor ; Almosorum) についての本の中でラーズイーによって発明されたミルラの丸薬を与える。それは次のようなものである：ミルラを3オンス、ルピナスを5ドラクマ、乾燥させたヘンルーダの葉、野生のミント、クルマバソウ、アカネ、ドクゼリモドキ、阿魏、ラン、オポパナックス (opopanax ; apoPONAK : 香料に用いる芳香性樹脂)、楓子香、芳香性のゴムをそれぞれ2ドラクマずつ取り、良い香りのするワインと混ぜて丸薬を作り；これを2ドラクマ取って、利尿効果のある種子、サビナビヤクシン、アカネ、キダチハッカをそれぞれ2ドラクマずつ混ぜたものに入れて与えなさい。

{第十一章は、出産後、女性の体内に保留される後産（胞衣）についてである。}

胞衣（後産）は、胎児が母親の子宮内にいる間、ちょうど木の実のまわりに内皮があるように胎児のまわりをとりまいて薄皮である。そして女性が子供を出産するときこれを排出することもあり、出産時に子宮が非常に弱っているために胞衣が内部に残るときもある；そしてこれは、何も食べなかったり、腹を立てたり、憤ったり、叩いたりした結果かもしれないし、子宮からの下血が長引いたためかもしれない。このようなことが子宮の中の胎児を死にいたらしめるのである。そして出産しても、胞衣が後に残るのである。

産婆は手に油を塗って、できるならば爪で胞衣を引き出し；もしそれができなければ、椅子に穴をあけて、そこに女性を座らせ、煙がちょうど彼女の秘所にあたるように山羊の角と足の爪を燃やした煙で下から燻蒸する。あるいは、塩かアニスを燃やした灰を取って、それを水と混ぜて飲ませる。または、ニガヨモギ、ゼニアオイ、タチアオイ、カラミント、コロ

ハ、オレガノで風呂をたて、風呂の中に座らせてへそまで浸からせる。風呂から出たら、へそから下に [f.223v] 新鮮なバター、ゲッケイジュのオイル、アラゴンの軟膏、デウトを塗り、同じものをわき腹や背中の腎臓のまわりに塗る。また、パセリやリークの汁を取り、それらを野生のタイムのオイルと混ぜて、彼女に飲ませるか、またはルリヂサの汁を飲ませてよい。そうすれば、それらは後産を外に引き出すだろう。そして同じことは月経の途絶えにも効果がある。

{第十二章は、神のご意志にかなう場合に、子供を妊娠する方法についてである。}

まず、経血がたっぷりある女性の場合には、風呂に入ったり、体を浸したりして、月経閉止や止血のための薬で洗い清める。または、カラミント、イヌハッカ、ウイキョウ、ピレトリウム、キダチハッカ、ヤナギハッカ、ヨモギ、ヘンルーダ、ニガヨモギ、アニス、クミン、ローズマリー、タイム、ペニロイヤルハッカ、マウンテン・オレガノをそれぞれ一つかみ、ワイン1ガロン、水6ガロンを取って煮て、この薬を飲ませる。クローヴの粉を3オンス、生卵の卵黄を4個取って、粉と卵黄を一緒に混ぜ、熱い石の上に乗せて焼き、それを四日間女性が精進した後に与え、その後しばらくは液体を取るのを控えさせる。また、男女どちらにもよいが、生の卵黄4個、クローヴの粉半オンス、サフラン1ドラクマで膏薬を作る。まず、胃の口のあたりに熱いバラのオイルを塗り、その上に粉をいくらか振りかけ、膏薬を作って、その上に載せる。

{第十三章は、出産後の過剰出血についてである。}

出産後に大量に出血する女性がいるが、これは彼女達をたいへん弱らせる。しかしこのような場合、[f.224r] 楽にしてやるような薬を与えるべきではないし、風呂に入れたり、強い薬用湿布を当ててもいけないが、前に出血についての章で述べたような他の薬は与えてもよい。一方の足の踝

の下でところで瀉血を行い、次の日にもう一方の踝の下を瀉血する。その後、前にここで述べた別の薬、たとえば出血の閉止についての章で述べたような薬を与える。そして、月経中腐敗物を出す女性もおり、時にはその腐敗物が、血液の代わりに排出されたり、排出されるべき血液とともに出たりする。そしてもしその女性が年老いていたり、不妊である場合には、薬を与える必要はない。若い女性の場合には、クレソン、七つ葉キジムシロ、五つ葉キジムシロ、またはウォーター・パースニップをワインに入れて煮る。そしてその湯気の上に秘所がくるように座らせる。

あるいはまた、野生のタイムを取って、これを粉にし、女性の秘所を両方覆うぐらいの幅と長さのある袋に入れる。熱くしてこれを当て、落ちないようにしっかりと結びつけておく。

子宮の傷は、オオバコとイヌホウズキの汁、卵の白身、スベリヒユの汁、トラガカントゴム、アラビアゴムをそれぞれ6オンスずつ用いて治療する。この薬を与えなさい。そうすればこれは上質のゴムのりのような働きをし、冷却して治療するのに効果がある。そしてもし静脈が破れていたなら、ヤグルマギクの花の汁、アルメニア産赤色止血土、サンドラゴン、ミルテの種、円いウマノズクサ、[f.224v] その他同様の薬で治療されねばならない。また、原因が冷えのためではなく、通常そうであるようにはなはだしい熱さによるものであれば、この場所のあらゆる種類の痛みに対する主たる薬として次のものを使いなさい。アラビアゴム、白いゴム、トラガカントゴムをそれぞれ6ドラクマずつ取って混ぜたものをバラ水2オンス、ミルテ・オイル1オンス、マスチックの粉と乳香それぞれ6スクループルずつを混ぜた中に浸す。そしてこれらすべては、軟膏状の一つの薬に作られなければならない。そして、分別ある女性に痛みのあるところや、この場所だけでなく他のあらゆる場所の炎症、たとえば切り傷や唇、口内の傷にもこの薬を用いさせなさい。同じ症状に対する別の薬：アラビアゴムと、トラガカントゴム4ドラクマ、礬砂2ドラクマ、シヨウノウ、アルメニア産赤

色止血土、アルカンナ（alkannet；alcanne：血止め薬や着色剤として用いる植物またはその根）、サンドラゴンをそれぞれ1ドラクマ、マスチック、ミルテ、白鉛、乳香、密陀僧をそれぞれ半ドラクマ、貯蔵オイルを4オンス、バラ水を8ドラクマ取る。トラガカントゴムと礬砂をバラ水の中に入れて、すべて溶けるまで一昼夜浸しておき；目の粗い布ですっかり透明になるまで漉して；他の香料すべてを細かい粉にして前述のオイルと混ぜ、このゴムのりとさらに混ぜて、完全に混ぜ合わせてから必要なときに用いる。この薬はあらゆる種類の癌、腫瘍、激痛、丹毒、炎症、癰、黒胆汁の病的二次形態から起こる潰瘍、その種の他の病気すべてに効果がある。もし、炎症が冷えによるものであれば、コロハ、ペルシアゴム（sarcocolla；sarcocoll）を4ドラクマ取って、カミツレ、甘松香、マスチック、ミルラ、シナモン、カストリウムを上手に粉にして混ぜたものの中に注ぐ。それらすべてを母乳、オオバコの汁 $2\frac{1}{2}$ ドラクマと混ぜ合わせ；よく混ぜたら、秘所に関わる病気に用いる。なぜならこの薬は [f.225r] 薬で治る病気であれば、すべての病気をその場所から除くからである。

{子宮の癌（cancers；cancris）と潰瘍について。}

子宮の癌とただれは十分治癒していなかった子宮の古傷から生じるが、この種の病気について我々はほとんど触れないだろう。なぜなら、隠された癌に関して、それを治療したり手当したりするよりはむしろ治療しないままでおく方がよいと医者達が述べているからである。それにもかかわらず、次の軟膏はそうした症状にも、子宮内のかゆみや水ぶくれにもよい。熟したヒョウタン（gourd；gourde：瓜の一種）を一つ取り、皮を剥いて中を取り除き、非常に細かく摺り潰して、バラ・オイル、蜜蠟、羊の脂と一緒に鍋に入れて火にかけ、煮立ったらマスチックの粉と乳香を加えてよく煮る。その後、布で漉して、この薬を患者の体の内部に塗る。そしてこの軟膏は火による火傷や熱湯による火傷にも効き；炎症に塗った後で、その上にワインで煮たツタの葉を載せておく。あらゆる種類の癌症状に対す

る強壯薬；そうした病氣すべてに次の薬を使いなさい。まず、ギシギシ（red dock ; rede dokkis）の根を半ポンド、アイリスの根を1ポンド取って、これらの根を3クォーターのきれいな水と1クォーターの白ワインに入れて煮て；半ガロンになるまで煮つめる。そして少量の、すなわち6ドラクマの蜂蜜と16個の卵の白身を加え、この混ぜた液体を澄ませ、これで丹念に秘所を洗う；よく梳いた綿を取ってこれを麻の袋の中に丁寧に入れ、この綿入りの袋を濡らして使えば、簡単に癌をきれいにし、そこから汚れを取り除くだろう。それから、次のような膏薬を作りなさい：白いトラガカントゴム、アラビアゴムをそれぞれ2ドラクマ取って、柔らかくなるまでバラ水に浸しておく；[f.225v] それからアロエ、白鉛水、乳香水、サンドラゴンをそれぞれ2ドラクマ、金の密陀僧を1ドラクマ、蜜蠟を2ドラクマ、バラオイルを6ドラクマ取って；真鍮のすり鉢を熱くし、そこに蜜蠟、トラガカントゴムのオイル、アラビアゴムを入れ、よく混ぜ合わせてから少し冷やし；粉を入れたバラ水を加え完全に混ぜる。そしてそれらがよく混ざり、十分冷たくなったら、ショウノウと、潰したバラのオイルをもう少し加える。そしてこの混合物から、とてもよく効くと効果が試された薬を作る。

{妊娠中の女性の足の浮腫みについて。}

妊娠中の女性の足は浮腫む。その場合、鍛冶屋の砥石の下に置いてある水槽に沈んでいるものを取り、それを乾かして粉にし、酢と混ぜて浮腫んでいるところに塗る。あるいは膏薬のように貼ってもいい。または、豆の挽き割り粉を取って、それを酢、オイルと混ぜ、浮腫んだところにつける。さらには、黒石鹼と一緒に塗り、その後、ニワトコの葉を他の溶液を入れずに鍋でそれだけ炒めてから貼る。そして、この薬は、陸路を旅した男性の足にも効果がある。

月経を起こすには：パセリの根、ウイキョウを一つかみ、ヤナギハッカの葉、キダチハッカ、カッコウソウ、ゲッケイジュの葉、ローズマリー、

ラヴェンダーをそれぞれ一つかみの半分ずつ、イヌハッカを三つかみ、クレタ島産ハッカ、ヘンルーダ、ヨモギを $2\frac{1}{2}$ ドラクマ、ヒメウイキョウ、エゾデンダを4ドラクマ、白ワイン一瓶を取って；刻んでよく煮てから漉し、サフラン1スクループル、クローヴ2スクループル、[f.226r] 半ドラクマのギニア・グレインズ (grains of paradise ; granorum paradisi : アフリカ産ショウガ科植物の種子で、香辛料として珍重された)、6ドラクマの蜂蜜、悪臭のある塩を加えて再び煮る。テレピンノキの白い粒、コロシントウリ、摺り潰したアロエ、シトロン、ショウガ、タイムをそれぞれ2スクループル、ドクニンジン²を2ドラクマ、黒と白のクリスマスローズ、サフラン、ピレトリウム、ドクニンジンの種、アニスの種、ドクゼリモドキの種、ヒメウイキョウ、カラシナ、オランダカラシの種、ルバーブをそれぞれ半スクループル、パセリ、楓子香、トチバニンジン、クジャクヤシ、阿魏をそれぞれ $2\frac{1}{2}$ ドラクマ、ミルラ、オイル・ベネディクタを2ドラクマ、アラビアゴム、カストリウム、スカモニア、ユーフォルビア、トウダイグサ、沈香樹、ヤグルマギク、フランス・ラヴェンダーをそれぞれ1スクループル、カラマツハラタケ (larch fungus ; agarici) 2スクループルを取って；これらを混ぜたものを $2\frac{1}{2}$ ドラクマのリークの汁に入れて丸薬を作らせる。

膏薬：ゼニアオイを二つかみ、ノコギリソウ、ウイキョウ、マンサクをそれぞれ一つかみずつ、リークの葉を三つかみ取って；細かく刻み、摺り潰して少量の水を加えて焼き、胃のあたり全体から陰部にかけて円い形の軟膏を貼る。

発酵：アイリスの根を1メジャー、アニスを1オンス、ローズマリー、カラミント、ヤナギハッカ、キダチハッカ、オレガノをそれぞれ1ドラクマ取って；同量のワインと水に入れて煮立て、薬草を袋に入れ、発酵させた後、子宮の奇胎や死んだ胎児を取り出すために陰部の上に置く。リークの種、野生のセロリ、ミルラ、甘松香、カラミント、キャメルグラス、カシア果の外皮をそれぞれ2ドラクマ取って；アニスを粉にし、水、ワイン、

蜂蜜、そしてキダチハッカ、ヤナギハッカ、クレタ島産ハッカ、アカネ、オオグルマ、イヌハッカ、アイリス、固形塩 (dry salt)、サザンウッドを一つかみずつ入れた煎じ汁とともに、早期の入浴前に飲ませる。同様に、ラーズイーによれば、ハシバミの実、円形で長いウマノズクサを6ドラクマ、ミルラ、カラマツハツタケ、甘松香をそれぞれ3ドラクマ取って；西洋ネズを一服加えてそれぞれ3ドラクマの重さに丸薬を作ると、胎児を外に出すのに太いに助けとなる。1ドラクマ18グレインのアイリス、ハシバミの実、イヌホウズキの木、三つ葉ウイキョウの種、2ドラクマのアニス、2ドラクマ2スクループル2グレインずつのウマノズクサ、ヨモギ、カシアの木、1ドラクマ1スクループル1グレインのヤグルマギク、2ドラクマのニンジン、1オンスの黒いクリスマスローズ、1ドラクマ9グレインのゲッケイジュの葉、4ドラクマのカンゾウ、1オンスのルピナス、2ドラクマのウイキョウ、6ドラクマ2スクループル3グレインのミルラ、3ドラクマのイナゴマメ、6ドラクマの血止め薬、2ドラクマ2スクループル2グレインのマケドニア産 [f.226v] ペリトリウム、5ドラクマ1スクループル2グレインの黒コショウ、1ドラクマのカヤツリグサ、2ドラクマ2スクループル2グレインのゲッケイジュの種、2ドラクマ2グレインの甘松香、2ドラクマの灰汁、すなわち火薬、1ドラクマ2スクループル2グレインのキャメルグラス、パセリを少し、1ドラクマのサビナビヤクシン、1ドラクマ2スクループル2グレインのバルサムの木、ヨーロッパ産オオバコを少し、2ドラクマ1スクループルの精製したシャクヤク、2ドラクマのクローヴ、それぞれ3ドラクマのケイパーの根、シナモン、4ドラクマ分のイヌハッカ入り蜂蜜を取る。前述したエドゥマンド (Edmund) 師の治療法は血液の流出 (hemagoge ; emagogum) を与える、すなわち、月経の流れを生じさせる療法である；普段月経が起らない女性やその子宮についての多くの病気にとって、それは驚くほどの経血である。その療法は経血を排出させ、子宮内で死んだ胎児を殺して取り除き、出産後の健康を増進し、膀胱の石を砕いて排出させ、利尿作用があり、排

尿困難を治し、コゴメグサ (euphracy; eufrasia) を機能させ、脾臓やその他の内臓の硬化を治療し、胃の不調の際に最も役に立つ；食物を消化できない人々を治療し、粘液を活発に排出させ、腎臓の疝痛に悩んでいる人々を治療する；できるだけ健康になりたいと願っている男性にも役立つ。女性に対しより役立つということは認められない。そのため、患者は、この療法が、痔や子宮からの異常下血や赤痢を引き起こさないように気をつけなければならない。これは体内全体の通り道を開き、死んだ胎児や後産を排出し、膀胱を清め、胃を温め、嘔吐を抑え、腸内のガスを消滅させる。

性交を抑制するために。オイルを4ドラクマ、ショウノウ3ドラクマを取って、ショウノウを潰し；オイルと混ぜて腎臓のあたりに塗ると、この薬は純潔を保たせる。また、ヤナギやポプラの最も良いところを食べた者は、継続して用いると、あらゆる肉欲に対し冷静であることができる。また、クマツヅラを身につけたり、飲んだりすれば、それを止めるまでペニス は堅くならないし、枕の下にクマツヅラを置けば、七日の間勃起が起こらない。この処方を試してみたければ、フスマに混ぜて雄鶏に与えてみなさい。そうすれば雄鶏は雌鶏の上に乗ることはないだろう。[f.227r] また、オダマキは睾丸部の欲望を消滅させる。同様に、靴紐にクマツヅラの汁を塗って身につけると、柔弱になるだろう；そして誰かに触れると、それは接触の快感を弱めるので、その種のことに對して不適當になる。また、左手に硫黄を持っていると、勃起が起こらない。同じく、雄鶏の睾丸と血をベッドの上に置くと、男性に対し性交を抑制させる。同様に、レタスの種は精液を枯渇させ、好色さと性欲を静める。同じく、トパーズ石は純潔さを生み、色欲を抑える。また、ヒヨスの汁を睾丸に塗ると、熱を冷まし、勃起と肉欲を消滅させる。同じように、琥珀石は、身につけておくと、純潔性を高める。さらに、ヤナギの種は肉欲を消す。同じく、アブラナ、ヘンルーダ、ジョンウォートを乾燥させて粉にし、一緒に食べると、好色さが止む。

子宮の硬化と荒れについて。普通の水を蒸留したものやウスベニタチア

オイの湿布は硬化をやわらげる。同じく、ガチョウの脂とリークの汁を混ぜ、月経の量が少なくなったら、子宮の頸部に塗るのに用いると；子宮を弛緩させる。また、ムギセンノウ、ミルラ、白い乳香をワインか水に入れて同時に煮て；閉じた子宮を燻蒸し、塗油するのに用いると、子宮を開き、妊娠しやすくする。これはイザーク (Isaac) による療法である。また、掘り出して湯で処理したクリスマスローズの根は、すべての痛みを追い払ってくれる；イヌハッカの汁を注入すると、子宮の弛緩を引き起こす。同じく、あらかじめ乾かしておいたイヌハッカで作った膏薬は、体の前と後ろに用いると子宮から引き出す。同様に、オレガノを一服入れたワインは月経をもたらす。オイルを1ポンド、コロシントウリを1オンス、ヘンルーダの汁を3ドラクマ、ニガヨモギ、ヨーロッパ産オオバコをそれぞれ2ドラクマ取ってそれらを煮てもよい、等々である。

種々の黄疸について：茶碗一杯のニガハッカを飲むと治る。同じく、エールと一緒にアカイラクサ (red nettle ; vrtice rubie) の汁を飲むとよい。また、象牙を削ったものを飲むと効果的である。水に溶かしたサフランを飲むと、すぐに治る。また、カモミールの汁を湯に入れて飲むと、肝臓の熱にすばらしくよく効く。[f.227v] そして、イヌホウズキの汁も黄疸を治す。同じく、キンポウゲをそのまま、またはワインで煎じたものを水に入れて飲むと、即効性がある。

結石について：蜂蜜と混ぜたヨモギの汁を飲むと、結石を治し、これを砕く。同じく、蜂蜜とコショウを混ぜたカッコウソウを飲むと、痛みを追い払い、腎臓と膀胱から結石を除く；ゲッケイジュの樹皮と実は、小さな結石を砕いて除く。

放尿時の痛みと排尿障害に対して。蜂蜜と混ぜて温めた牛糞を用いると大いに役に立つ。また、野ウサギの毛を燃やして飲むと、排尿にすぐ効き目がある。同じく、患者に三日間続けて、普通のイラクサを体にあてさせておき、体を乾かすと、悩みから解放されるだろう。また、楓子香を胃のあたりからへそにかけて載せておくと、すぐに排尿を引き起こす。同じく、

五つ葉キジムシロの根を白ワインで煎じ、砕いて粉にしたものを夜と朝早く用いると、たちまち排尿を引き起こす。同様に、五つ葉キジムシロの根を $1\frac{1}{2}$ ポンド、七つ葉キジムシロを6オンス取って；攪り、大麦の挽き割り粉と一緒に煮てすぐに飲むと、この薬は熱による放尿時の痛みを治す。同じく、羊の膀胱を焦がして飲みなさい。また、仔豚を焦がして飲んでも治る。同様に、ハシバミやアーモンドをローストして食べることは、失禁に用いられる療法である。また、ジョンウオートの葉をベッドに置くと、理屈によるのではなく、その自然の性質により尿の熱が解消される。

睾丸の腫れについて。豆の挽き割り粉にマンサクの汁と普通のオイルを混ぜて用いると、たちまち腫れやできものはなくなる。もし、ペニスが腫れていたなら、2オンスの蜜蝋と普通のオイルにスベリヒユの薬草を潰して混ぜたもの5ドラクマ混ぜて使うと、腫れはひく。また、大麦の挽き割り粉を蜂蜜か白ワインに入れて煮て、膏薬にしたものは、できものを治す。同じく、ヒヨスの葉1ポンド、ゼニアオイの葉半ポンドを水で煮て潰し、蜂蜜と白ワインに入れて煮込んだものは、できものを取り除く。また、リチャード・マーシュ (Richard Marche) 師によると、ゼニアオイの葉を三つかみ、ニガヨモギの葉を二つかみ、マンサクを一つかみ水で煮て；この煎じ薬を絞り出し、砕いた薬草と蜂蜜と一緒にローストして膏薬にして貼らせる。

[f.228r] 豊富な母乳による胸の腫れについて。これは、1ドラクマのアルメニア産赤色止血土、3オンスのバラ・オイルを酢、イヌホウズキの汁とともに用いて取り除く；同じく、豆の挽き割り粉を卵の白身とともに必要なとき用いる；キャベツの根、ミント、豆の挽き割り粉を陰部にあてると、それだけで母乳が薄まる。また、男性の排泄物を燃やせば、治癒不可能に見える癌性の潰瘍を治すことができる；そして、ホウライシダの薬草を患者の頭上にいつも掲げさせれば、ほとんど確実に癌を治せるだろう。同様に、羊の糞を蜂蜜と混ぜれば、瘻管と癌を消滅させ、すべての不純物

を除く。また、ヒヨスの葉を煮て砕いたものを、卵の黄身、バラオイルを煮たものと一緒に用いさせる。また、ゴボウを灰の下に置いて焼き、豚の脂肪や蜂蜜と混ぜたものは胸部の不快感と潰瘍を治す。ネズミの糞を水と混ぜて塗りつけると胸部の凝り、痛みがとれて、腫瘍が消滅する。また、野ウサギの血をその凝固したミルクと混ぜて飲むと、妊娠を促す。

病気に対して：ミルラ、ルリハコベ、カラクサケマンをそれぞれ12ドラクマ、アルメニア産赤色止血土を6ドラクマ、ヘンルーダ15ドラクマ、クレタ島産ハッカ、電気石をそれぞれ6ドラクマ、沈香樹、白檀、アカネ、ヨーロッパ産オオバコ、オレガノ、円いウマノスズクサ、ゲッケイジュの実をそれぞれ10ドラクマ、ゲンチアナ (gentian ; genciane : リンドウの根を干したもの) を6ドラクマ取って、粉にする。目のあらゆる病気に対しては、カメー匹の80分の一を正確に取り、ウイキョウを12つかみ取って、瓶に半分の水で煮る。嘔吐を防ぐには：スイバの種、コストマリー、メギ、赤と白のサンゴ、シカの腸を削ったものを取り、ザクロ、白檀、オイル、電気石をそれぞれ3ドラクマ取り、クミンと一緒に煎じ、アニス、ミント、アカネ、カヤツリグサ、沈香樹、クローヴ、イヌホウズキの木の内部、シナモン、シロショウガをそれぞれ3ドラクマ、ギニア・グレインズの粒、イヌホウズキ、サフラン、ニクズク、甘松香、ヒメウイキョウ、ガジュツ、キュウリ、長い黒コショウ、赤いバラそれぞれ4ドラクマと一緒に燃やし、細かい粉にして、1ポンドの白砂糖、12ドラクマのマルメロ、6ドラクマのバラ水を混ぜて、ディアシトニコン・シロップの場合のような練り薬、すなわちマルメロ練り薬を作る。

助かるかどうかを試すには。ヒヨスの葉とヘンルーダの葉を潰して膏薬にし、こめかみや額に貼る：もし彼が眠れば、助かるだろうが、そうでなければだめである。[f.228v] マケドニア産アーティチョーク、岩塩、アカネ、チャーヴィル、ハコベをそれぞれ3ドラクマ取って粉にし、軽い飲物、すなわち3ドラクマのエールとともに毎朝三日間飲み続けると、この煎じ薬は吐き気によく効き、食欲を出させる、等々。このことは早足ガー

ドゥナー (Lightfoot the Gardener) によって試され、その処方を試したことで彼の妻は彼のことを「父」と呼んだ。

女性についてのみ：アイリスの根で燻蒸しながら、踝の下で瀉血をする。

まず、月経の閉止の章で書いたようなスープを、彼女のために作らねばならない。

第二：その後、月経の抑制の章で書いたような水薬を飲まなければならない。

第三：月経の抑制の章で書いたような、入浴時に座るための枕を使わなくてはならない。

第四：月経の抑制の章で書いたように、入浴しなければならない。

第五：月経の抑制の章で述べたように、手足に軟膏を塗らなければならない。

第六：子宮の奇胎のところで述べたように、座薬を用いなければならない。

第七：奇胎の章で述べたように、ペッサリーを用いなければならない。

第八：出産の章で述べたように、子宮に膏薬を貼らねばならない。

第九：出産を促すために、オイルを塗らねばならない。

第十：利尿薬とともにミルラの丸薬を飲まねばならない。

嘔吐について：ローズマリー、レッド・ミント (red mint; rede myntes), ゲッケイジュの葉をそれぞれ3ドラクマずつ、クローヴを半オンス取る。これらすべてを3クウォートの赤ワインと3オンスのバラ砂糖に入れて煮た後、漉す。

入浴：ヨモギ、ニガヨモギ、イヌハッカ、オレガノ、ピレトリウム、野生のタイム、ヘンルーダを一緒によく水に入れて煮て [f.229r] 風呂をたてる。

飲物：クミン、パセリの根、ヨモギ、フィールド・パースニップの根、アイリスの根を同量ずつワインに入れて煮て、1カップの澄んだ蜂蜜を加えなさい。

別の飲物：ヨモギ、クレタ島産ハッカ、サピナビヤクシン、イギリス産アカネシャクヤクをそれぞれ同量ずつ取って潰し、オジュー・ワインかバスタード・ワインに入れて煮て、それに澄んだ蜂蜜を加え、これを貝褐炭の粉と一緒に何度も飲む。

膏薬：マリーゴールドの葉、ハコベ、ペリトリウムを取って、ヨウシュムラサキの種、オダマキ、コショウの実12粒を加えて潰し、膏薬と飲物を作る。

何度となく、さまざまな女性達が、よい産婆が不足しているため、出産時に大きな困難を経験し、その困難は秘密にされていて、助けを必要としている。次のような問題を抱えている女性もいる：腹膜が破れ、両方の排泄に対し一つしか出口がないのである。そしてこうした女性の場合、出産時に出口があまりに開いてしまつて子宮がはみ出してくることがあり、子宮が堅くなって、医療の助けなしには元の場所におさまらなくなる。そして、その治療法は次の如くである：良質の白ワインを取って、熱くし、新鮮で塩気のないバターを加え、このワインで子宮を何度も丁寧に、柔らかくなるまで湿らし、子宮をあるべき位置に静かに戻す。その後、二重にした絹糸で三箇所か四箇所腹膜の破れを縫い合わせる。そして、その部分つまり陰部に、大きさに合わせた麻布をあてる。その後、そこを [f.229v] 熱いタオルで覆うと、タオルの悪臭が子宮を引っ込ませてしっかり固めておく。裂け目もヒレハリソウ、小さなヒナギク、シナモンの粉を振りかけると、治ってふさがらう。そして、患者をベッドにまっすぐに、足が頭より高くなるように置き、そのまま九日間ベッドに寝かしたままにして、用便の世話もしてやる。そして、流動食を控えめに食べさせ、飲ませる。九日が過ぎたら患者を起こして、仕事や活動はほどほどにとどめ、入浴、消化しにくいすべての食べ物と重い食べ物を控えなくてはならない。そうした食べ物は咳を出やすくするからである。そして、先に述べた九日の間、排泄時以外の排泄を防ぐために肛門に麻のタオルを突っ込んでおくのを知ることは必要である。

子宮が降りてきたり、時には何らかの理由で持ち上がったたりする女性も他におり、そうした女性は、その大きさのゆえに男性のペニスに耐えることができないが、できるできないにかかわらず、耐えることを強いられる場合が時にある。我々は、先に述べたタールを塗った麻の布切れの薬を、そうした女性に与える。そしてもしタールがなければ、麻布を取って、それを野生のタイムかジャコウの熱いオイルで湿らせて、それを患部、すなわち陰部に入れて子宮が固定するまでしっかり結びつけておく。そして、患者に咳を起こすような食べ物や飲物を禁じる。また、年老いた女性の場合に子宮がはみ出してくるのは、治療できないことを知らなくてはならないし；若い女性の場合でも、子宮が大量の血液と共にみ出し、長期間続く治療できない。しかし [f.230r] 長期間のものでない場合は、次のようにして治すことができるかもしれない。まず、ゼニアオイ、タチアオイを煮出した水で子宮を湿らさなくてはならない。その後で、我々は患部、すなわち陰部にアラゴンを塗り、外陰部にも塗る；そしてまた軟膏とタイムのオイルをつけて子宮を中へ押し戻す。そしてその女性を、布でしっかり覆って下に熱い石炭を置いた椅子に座らせる。そしてひどい匂いのするもの、たとえば毛のぼろや髪の毛、ドクニンジンなどの悪臭のする薬草、その他同様のものを石炭の上に置くと、その結果、子宮はその位置に留まるだろう。このように子宮が元の位置に戻ったら、マスチック、乳香、アルメニア産赤色止血土、サンドラゴン、松脂を混ぜ合わせて膏薬を作り、陰部に貼ると、子宮を長く固定させるだろう。もし、女性が妊娠を望むならば、彼女がその望みを持ちうるがどうかをまず確かめなくてはならない。二人の内のどちらか、または両者に欠陥がないか知ることである。それは次のようにして確かめられるだろう：マスタードの壺のような小さい壺を二つ取り、それぞれに小麦のフスマを入れ；一方に男性の尿を、もう一方に女性の尿を入れ、九日以上置いておく。そしてもし欠陥が男性にあれば、九日後には尿に虫がわき、ひどい匂いを放つようになる。そしてもし欠陥が女性にあれば、同じ証拠を見出すだろう。そしてもしどちらの壺にも

虫がわからなかったならば、男性の状態も女性の状態も治療され、彼らは神の恩寵のおかげで次のような薬によって望みをかなえることができるかもしれない：雄ブタの睾丸を取り、それを煙が出ないように非常に小さい蓋で塞いだ壺か継ぎ目を押しつぶした壺に入れてオーヴンの中で乾燥させ、
[f.230v] その睾丸が乾燥したら、これを粉にして女性に飲ませると、その後で彼女は月経を見るだろう。

月経について。それから彼女を達させると、神の恩寵により妊娠するだろう。しかし彼女はその粉を良質のワインと一緒に飲まなくてはならない；そしてもし彼女が男の子を妊娠することを望むならば、その男女は野ウサギの子宮とその外陰部を取り、先に述べた方法で乾かして粉にし、その粉をワインと一緒に飲む。もし女性が女の子を望むならば、野ウサギの睾丸を乾燥させ、月経の時期の終わりにそれを粉にし、床に就くときにそれを飲んで、夫とことを行う。妊娠しにくい女性のための別の薬：一匹の雌ブタだけをはらませたブタの睾丸と肝臓を取って粉にし、その女性が夫と休むときにワインに入れて飲ませると、トロトゥーラ (Trotula) が証明したように、彼女は妊娠するだろう。

結石のための試された薬：ヨウシュムラサキ、ヒメウイキョウ、パセリ、ハリナデシコ、ウイキョウ、ロヴァージュ、野生のセロリ、ホース・パセリの種、サクランボの種の仁、ヨウシュシモツケの根をそれぞれ同量ずつ取る。粉にして、匙一杯の粉を治癒するまで朝一番と夜寝る前に、白ワインか温めたエールに入れて一口で患者に飲ませる。そしてスープに入れれば、いっそうよく効く。そしてもし腹痛があるなら、その粉にゲツケイジュの実を、先に述べた種の分量の半分だけ加える。

結石に対する別の薬：パセリの根、ウイキョウ、野生のセロリ、ハツカダイコン、ヨウシュムラサキ、[f.231r] ハリナデシコ、ホース・パセリ、ヨウシュシモツケをそれぞれ一つかみずつ、ウイキョウ、パセリ、野生のセロリ、ロヴァージュ、ヒメウイキョウ、ヨウシュムラサキ、ハリナデシコの種、サクランボの種の仁、ホース・パセリの種をそれぞれ1オンスずつ

つ、シナモンを半オンス取って；これらを小さく潰し、 $1\frac{1}{2}$ の水に入れ、半ガロンになるまで弱火で蓋をして煮る。冷たくなったら漉して、4オンスの砂糖を混ぜ、しばらく一緒に煮る。この煎じ薬は朝一番に用いるべきである；夜の最後には、温かい牛乳とともに一口で飲む。ペネディクタを1ドラクマ、コロシントウリの内部を半ドラクマ、イヌサフランを2スクループル、プルヴェリス・ドミニキ (*pulveris dominici*)、穴のあいた真珠と穴のあいていない真珠をそれぞれ半スクループルずつ取って、水、陶土、スピガネル (*spigurnel; spigernillis*) で丸薬を作る。先に述べた薬は、結石を治療するのによい。

中風によく効く薬：サクラソウ、野生のセージ、イチゴの苗、フキタンポポの葉——それぞれ一つかみあまり——をまず取って、非常に小さく刻み、薬が男性のためのものであれば、雄ブタの脂半ガロンに入れて煮る。もし薬が女性のためのものであれば、雌ブタの脂半ガロンに入れて、一緒にとろ火で少なくとも四、五時間煮る。そして、煮た鍋に入れたまま一晩置く。翌日、それを温め、漉して蓋のある容器に入れておく。そして、六、七年の間十分寝かしたままにする。そして病人をほどよい強さの火の側に座らせ；病気に冒された関節に一日二回薬を塗る。

中風のための薬：[f.231v] スペイン産ドクニンジンのペリトリウム、アニス、パセリ、カヤツリグサ、クローヴ、ナツメグ、セージ、ヘンルーダ、ホース・パセリ、ニクズク花、フランス産センナ、乾燥させた海狸香、すなわちカストリウム、長粒のコショウをそれぞれ同量ずつ——1オンス、あるいはもしそうしたいなら、それより多くても少なくともよい——取って、すべて粉にする。そしてそれらをきれいに漉して、食事の前にスープにその粉を匙に半分入れて食べる。そして、生涯の間、毎日、首、手、手の関節部をすべて蒸留酒 (*aqua vitae*) で洗い、三日ごとに食後匙一杯の蒸留酒を飲む。

先に述べた蒸留酒を作るために：まず、手に入れることのできるうちで最も強いワインを2ガロン取って、それをきれいな皿に注ぎ、オレガノ、

ラヴェンダー、タイム、ローズマリー、セージ、野生のセージ、マウンテン・タイム、タイム、サクラソウ、キバナノクリンザクラ、ノハラガラシを——それぞれ同量加え；先に述べたカストリウムの粉を半ポンド、大葉のカラシナを半ガロン加える。これらすべてとワインを鍋に入れ、二つの蒸留器を使って蒸留し、先に述べたように用いる。

人を震えさせる病気、中風に対する薬：赤いウイキョウ、パセリ、サビナビヤクシン、ゲッケイジュの葉をそれぞれ一つかみずつ、白いゼニアオイを半つかみ、ハツカダイコンをもう半つかみ、シャグマハギを一つかみ、サクラソウを二つかみ、ラヴェンダー、ヤナギハッカ、ルリヂサ、赤いイラクサの若枝をそれぞれ一つかみ、カッコウソウ、コタニワタリ、ヘリオトロープをそれぞれ二つかみ、スマレを一つかみ、クレソン一つかみ、セージを他の薬草の半分の量だけ取って、一緒にする。それから [f.232r] よくそれらを洗い、潰して、新しい陶器の鍋に入れ、1ガロンの良質の赤ワイン、 $1\frac{1}{2}$ ガロンの良質の湧き水、1ガロンの良質の蜂蜜を加え、煮て上澄みをすくう；それからそれらすべてを一緒によく煮て、1ガロンにし、鍋を火から下ろして漉し器で液体を漉し、きれいな容器に入れてよく蓋をし、病気がよくなるまでその飲物を、朝一番と夜寝る前に——夜は熱く、朝は冷たくして——患者に飲ませる。（完）

（本稿は平成2年、3年度広島経済大学特定個人研究助成の成果の一部である。記して感謝する。）